世話焼女房

山東京山作
歌川国貞画

三編

へ13
3690
3

山東菴京山作

松若
梅若
竹取物語三編
山東菴京山作
香蝶樓國貞画

月の都乃天津乙女のかりに人間に下浊しく竹のうちにやどりて竹取の翁のさづけたまひしことのほかのうつくしさにむすめとなしけるなよ竹の赫奕姫と名づけけるそのなりひかるばかり世にまたなき美人なれば雲の上びと五人がいひよりて姫のもとへ王のそ火ねずみこれかまたあるなど世にまれなる宝を求めければまた其のち雛子わたり都も八月十五夜つひに月のみやこへかへる事でつくつくれる竹取の物語にて今の世竹の代につゞきて源氏のめでたかりしにならへ此をそのかの男子そをまた物語の親わざぞわがけづりつくれる竹とりかけ紙硯ようやく竹よりとりて書源氏の事を書源孫…香炉棒が画とのつて森屋が爰の桜…ちかうさせて竹…のことなさでもひとかたちを書物のやうにひとつの…を…玉のくさぐさも…ところせくまめのみつしまを…の板元梓にしてつゞきの…まのあたり読も…

山東庵
京山誌

へ13
3690
3

竹斎三編考

凡そ京山人編近刻

山田の三郎

竹とみの本きやう

才三のくつらげやうと

竹取三編上之終
作者いそ
左門が加えたちのまつ下のまくら
京山作
國貞画

竹取三編下之巻

竹
母
竹

竹亭
時ち

柳美
ちわら

竹取三編下之巻終

京山作

國貞画